

# 公開試験の概要（イメージ図） 1

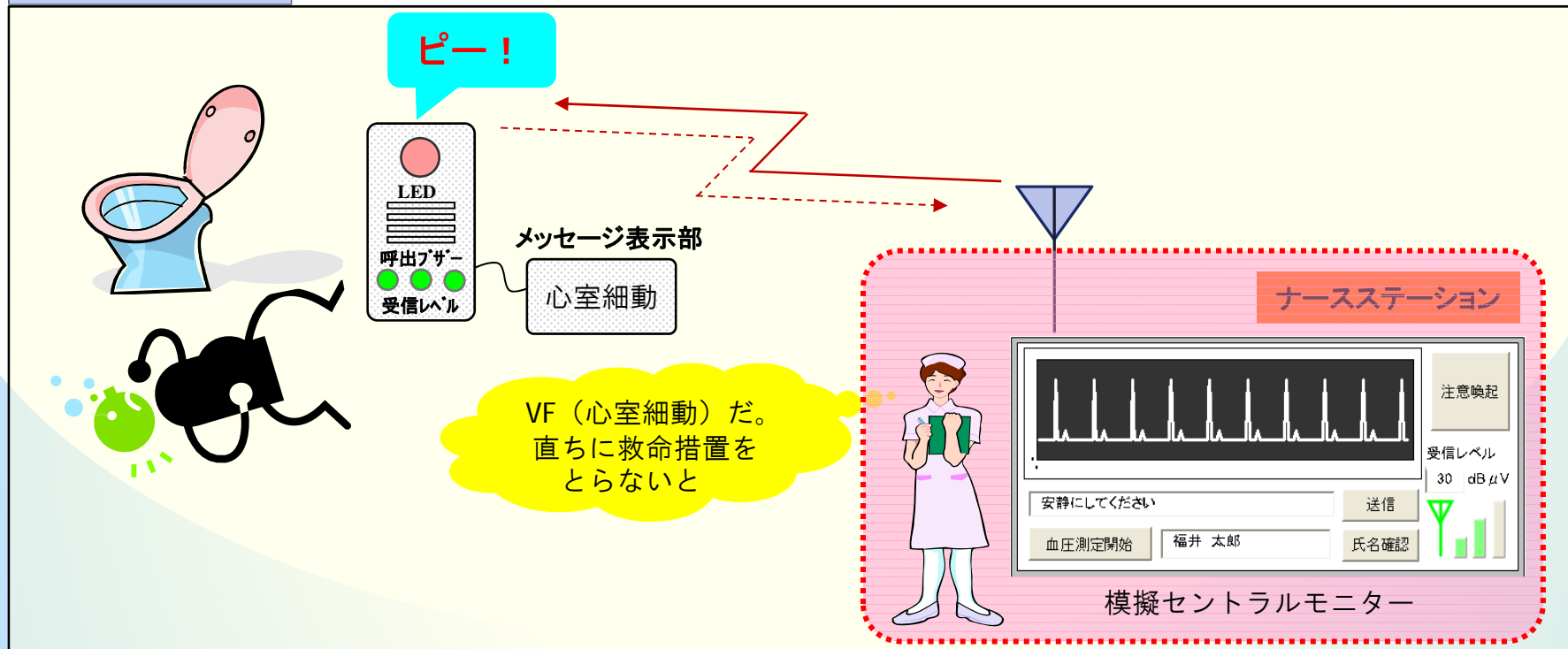
## 課題 1

- 心電図等の生体信号に意識を失うような重大な異常が察知されても、患者の居場所が分からずに、救命処置が間に合わなかった事例が報告されている。
- 心電図等の生体信号に異常が発生した場合、携帯型のテレメーターでは端末に解析機能がないため、患者は異常を認識することができない。

## 対策と効果

- セントラルモニターが異常を検知した場合において、医師、看護師が緊急時と判断した際にナースステーションから患者のテレメーター装置を鳴動させ、居場所の検索を補助することにより、重篤な状態にある患者の早期発見につなげる。
- また、同様に医師、看護師が必要と判断したときは、患者のテレメーター装置にメッセージを送り、表示させる。

## イメージ図



## 公開試験の概要（イメージ図） 2

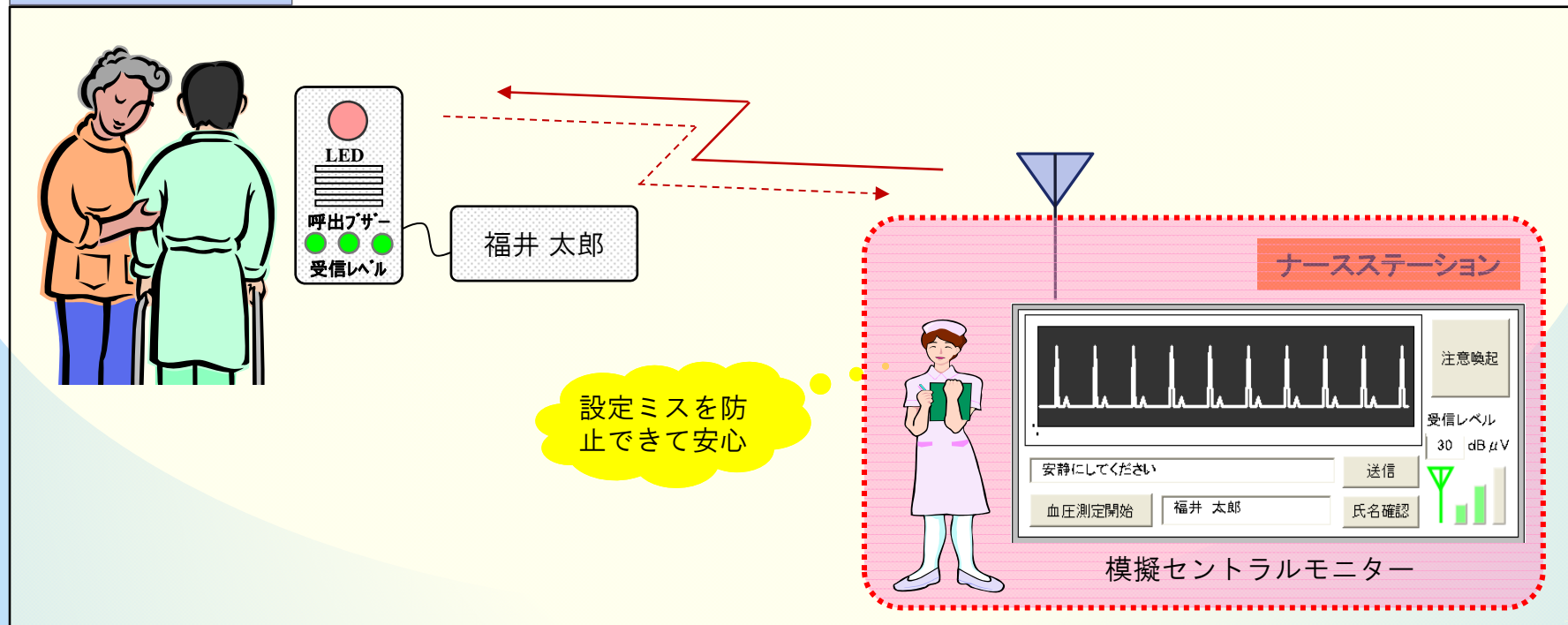
### 課題 2

- 患者に装着するテレメータ装置及びセントラルモニター双方に患者情報等を入力する必要があるため、入力誤りにより情報に食い違いが生じることがある。（患者の取違い事故の発生が報告されている。）
- 非観血式血圧の定時測定等において測定エラーが発生した場合、その都度、患者のもとに出向いて操作し再測定を行う必要がある。

### 対策と効果

- ナースステーションのセントラルモニター側で設定した患者情報等を医療用テレメータに転送し、反映することが可能となり、事故防止とともに医療従事者の負担軽減が図られる。
- ナースステーションのセントラルモニターからテレメータ端末に接続された血圧計等を遠隔制御することができるようになり、医療従事者の負担軽減が図られる。

### イメージ図



# 公開試験の概要（イメージ図） 3

## 課題 3

○患者には電波の受信状態が分からないため医療用テレメーターの電波の届かないエリアに気づかずに移動して、ナースステーションでモニタリングできなくなる。

## 対策と効果

○双方向化にすることで、受信電波レベルの低下をLED点滅やメッセージで患者に知らせることができるので、心電図情報等の途切れを減らすことが可能となる。

## イメージ図

